

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎月の向上会議、運営推進会議にて読み合わせをしている。基本として日々のケア実践につなげている。ホールなどにも理念を掲示して意識できるようにしている。職員の評価にも活用。	法人の理念、行動目標、グループホームの基本方針があり、地域との関係、利用者の尊厳を守ること等が述べられています。毎月の向上会議(職員会議)で読み合わせ、日々の介護実践につなげるよう努めています。人事考課の面接時には理念の暗唱や意味が理解できているか確認しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響で地域の行事が中止となっていた。それでも地域住民参加の防災訓練、食材は地元の商店を利用している。定期的に野菜や花の差し入れなどを頂いている。	開所当初から理念にあるように、地域との関係づくりを積極的に行っています。コロナ禍で小学校・保育園との交流、地域の行事の参加等中止になっていましたが、今後感染対策しながらできることを進めたいと希望しています。また、この間も防災訓練、野菜等の差し入れなど交流は続けています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	実習生の受け入れは行っているが、地域の方に対して活かす機会はほとんどなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	利用者状況、活動報告、事故、ヒヤリハットなどの報告を行い、施設運営の意見や助言を頂き、会議等で共有して向上に努めている。	年6回奇数月に定期的に開催しています。コロナ感染拡大した時は、文書を配布して状況等の報告を行っていました。面会をできる限りやってほしいとの意見が多く、感染対策を行いながら工夫して実施するなど、サービス向上に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事故があった場合の報告やワクチン接種などの情報、調査協力はできているが、取り組みなど積極的な関係は持っていない。運営推進会議に地域包括支援センターから参加して頂いている。利用者の空室情報など協力を得ている。	運営推進会議には地域包括支援センター職員が出席しており、状況を伝えています。行政担当者とは必要な場合に連絡をとりながら、協力関係を築くようにしています。特にコロナ対策について(予防接種等)、分からないことを聞くなどしてアドバイスをもらっていました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員研修会で学び、具体的な行為を理解した上で日々のケアを行っている。身体拘束の意味は理解しているが、帰宅要求や徘徊者の危険があり、必要時施錠した。	身体拘束委員会があり、職員研修を実施しています。日頃より、身体拘束や不適切な介護をしないように職員間で話し合いながらケアに取り組んでいます。	指定基準における禁止の対象となる具体的な行為についての理解と実践だけでなく、日常のケアを振り返り、言葉の拘束について、さらに学ばれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員研修会で学んでいる。不適切なケアが疑われる事例を見聞きした場合は、職員同士で注意やアドバイスをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	職員研修会にて学んでいるが、個々の必要性などについて話し合うことは出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、料金改定、解約時は時間をとり、契約書に基づいて説明し同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナ禍であり、家族会の中止や家族の面会制限などで要望や意見を聞く機会は少なかったが、来所の際などに意見要望を聞き、連絡ノートや会議などで共有している。	コロナ感染防止のため、家族との交流機会は減りましたが、通院時の付き添いや感染防止を工夫しての面会、電話等で、意見や要望を聞く機会があります。要望では、面会や家族等との外出などがあり、要望にできるだけ沿うように検討しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員会議や人事考課面談、日常的に職員から意見や提案などを聞き、業務改善に活かせるよう努めている。	日々の申し送りや月1回の向上会議等で、意見や提案を出す機会があります。限られた職員体制の中、利用者の状況に合わせて勤務時間の変更等業務改善を行っています。また、年1回人事考課面接の際、意見を言う機会があります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の把握はまだ不十分であると感じる。しかし職場環境や条件など、少しずつ整備に努めてくれていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	大まかな把握はできていると思う。法人内の研修に参加できるようにしている。外部研修は個々の意欲の違いもあるが、参加するように進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	法人内のグループホーム同士での意見交換など、認知症の事例発表などを行うが、他の同業者との交流などはできていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人からの聞き取りを基本としているが、難しい場合は家族から情報を得ている。その上で本人が安心できる関わり方を考えて実践している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の話に耳を傾け、誠実な対応を心掛けている。共感しながら寄り添う姿勢を大切にしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入所時に、ケアマネからのアセスメント情報を参考にし、申し込み理由も必要な支援を見極める材料としている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人を理解し尊厳を大事にして共同の気持ちで接している。本人から学ぶことも大きい。協力し合える関係、一緒に暮らしていると思える関わり方に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の体調や生活の様子を家族に伝え、共有している。受診や外出をお願いして本人との関係が継続できるようにする。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナの影響もあり、外出や面会はほとんどできていないが、希望があればできるように窓越し面会など方法を考え実施している。最近、面会などの問い合わせも多くなり、徐々に行っている。	めぐり山本便りのほか、毎月、入居者の写真と状況を載せたお便りを家族等に送付しています。コロナ禍で面会や外出等制限していましたが、コロナが5類になって以降、通院時に家族の協力を得て家を見に行くなど、状況を見ながら関係継続の支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者の行動や表情を観察しながら、利用者同士がどの様な関係にあるか把握している。状況に応じて職員が場を取り持つなど、良い関係が保てるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	場合によりサービス終了後も様子を聞く場合もあるが、殆どは関係を保つ事はできていない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で、自己決定や自己表現ができる方には暮らしの希望など意向の把握に努めているが、聞き出せない場合は家族に聞くなど、本人目線で考える事を意識して、検討または記録に残して共有している。	日常の会話やつぶやきの中で希望や意向を聞き取り、介護記録や個別の連絡ノートに記録しています。困難な場合は、表情や目の動き、こちらで情報を提供して反応をみるなどして、意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ケアマネなどからの事前情報以外でわからないことは、本人や家族に聞いて対応しているが、家族状況や高齢といった状況もあり、わからないこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	行動を見守り、利用者個々の生活リズムの把握に努めている。できないだろうという先入観にとらわれず、実践において有する力を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人の状況や課題をチームで確認し、本人や家族の意向を取り入れた計画としているが、一部まだ不十分なところもあるので、意向などをしっかり取り入れる必要がある。職員の意見などは十分に反映出来ていない。	毎月の向上会議や毎日の朝礼で利用者の状況について話し合っています。介護支援専門員が担当職員の意見や日頃の皆の意見を参考に、介護計画の見直し立案をしています。家族には面会時や電話等で意見を聞くようにしています。	今後、日々の記録やモニタリングの記録を整理し充実させ、本人、職員等の意見を活かし、より現状に即した介護計画の作成を期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の介護明細に記入して情報共有している。特記事項は都度、勤務している職員で話し合い実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	基本は、家族に受診を依頼しているが、本人や家族の状況により、受診や買い物を職員が行うなど柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	読み聞かせ、音楽療法、JA虹の会などで、多くのボランティアや子どもたち、地区の方とのふれあいがあったが、コロナの影響でなくなり、まだ外部との接触があまりなく、支援は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居により、かかりつけ医変更の希望が家族からあれば、協力医療機関を紹介している。家族の納得を得て変更している。往診や相談により適切な医療を受けられるように支援している。	家族や本人の希望に沿って受診の支援をしています。入居に伴い協力医療機関に変更される場合もあります。協力医療機関は往診、他の場合は家族が付き添って通院しています。歯科については、JAの訪問歯科を利用しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	体調など状態変化が見られた場合は、早期に看護職または訪問看護へ連絡して、報告や相談をし指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の場合は情報を提供して対応を共有し、入院中の情報も家族や病院関係者と情報交換し、共有している。入院先も様々で関係作りは難しい。その時の関係のみになりがちである。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期の話し合いなどは利用契約時に意向の確認をしている。段階的に話が必要である。事業所のできる事などは、その時になってしまうことが多い。	入居時の説明の時に終末期についての意向同意書で確認をしています。実際に終末期を迎えた場合は、状況を見ながら事業所のできる事を説明し、家族等と話し合いながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当、初期対応の訓練などはできていない。避難訓練の延長で救命救急法など実施したい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中と夜間想定防災訓練を実施している。地域住民、消防団にも参加して頂き、有事の際の協力をお願いしている。	昨年11月には地震を想定して消防団や地域の協力を得て避難訓練を実施しています。運営推進会議でも話され、地域との協力体制ができています。実施後の振り返りも行われています。	実施後の振り返りを活かし、あらゆる災害のリスクを明確にして、さらに災害対策に取り組まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日々のプライバシーを大切にして支援している。自己点検チェックシートに記入して、自らのケアの振り返りを行うことで人格の尊重やプライバシーの大切さを再認識している。	理念や基本方針にあるように、利用者の尊厳を守った言葉かけや対応に努めています。自己点検チェックでは、社会人としての姿勢を振り返り、日頃の介護に活かせるようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員が決めつけず、その場の状況で本人が決定しやすいような声掛け等を働きかけている。日々の声掛けで思いや希望をお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	食事やお茶の時間を、一人ひとりのペースに合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	服選びの際は、職員が本人の希望を聞きながら一緒に選んでいる。自分で身支度ができる利用者に対してはそれを尊重している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一緒に食事をすることは行っていないが、お茶を飲んだりメニューの説明や声掛けをして良い雰囲気作りを心掛けている。	畑でとったフキ、玉ねぎの皮むき、食器拭きなどできる範囲で職員と一緒に準備や片付けを行っています。誕生日は希望を聞いて提供したり、献立の説明をしたりして食事を楽しめるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の摂取可能な量に応じて盛り付けている。できる限り嚥下の状態に合わせた形状で食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	本人ができる部分は自分で行って頂き、その方に合わせて仕上げや介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	介護明細で排泄パターンを確認したり、センサー方式D-3を活用し記入して、その方に合った支援を行っている。	介護明細(個別記録)に食事量、水分量と一緒に排泄のチェックをして状況の把握をしています。排便については、一覧表にして確認をしています。夜間はポータブルトイレを使用しても日中はトイレでの排泄ができるように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便秘者については内服薬を調節し排便コントロールをしている。水分摂取を促し、毎日、ヨーグルトや果物などを取り入れ摂取して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日の間隔を見て入浴の声掛けをする が、同意が得られない場合は無理強いしない。曜日や時間は決めていない。	一人ひとりの状況に合わせて入浴ができるように、毎日準備して入浴間隔を考慮しながら声を掛けています。湯舟に入れない場合は、足浴をしながらシャワー浴を実施するなど、ゆっくり心地よさを感じてもらえるように考慮しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	自力で移動できない利用者場合は希望を聞いて対応している。基本、本人の意見を尊重して自由に居室で休んでもらう。起きている際は、作業などの活動を増やし、夜間睡眠できるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬内容の説明書を全利用者分保管しており、薬への理解を深めている。薬が変更になった時は、特に体調変化に気を付けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	利用者の中には、家で行っていた家事仕事を積極的に行ってくれる人もいます。またそれが役割となり習慣となっている。レクなどでも日々違った事を行い、行事ごとの前には作品作り等を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	その日の希望に沿う事は、職員の体制にもより困難であった。感染対策をしながら、家族と共に外食や外出をしている。	コロナ対策のため外出機会が減っていましたが、最近、感染予防をしてお花見ドライブ、散歩等行ってきました。また、家族が通院時に外食等や家に連れて行く、畑の様子を見に行く、ベランダでのお茶会など個々にあわせて工夫しながら実施しています。	

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族等に依頼して、本人による現金所持はしていない。立替購入可能。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話したいとの希望があった場合は、状況により職員がかけて本人と会話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	不快を感じないよう配慮している。(特に音・光・温度には敏感な方が多い為)また季節行事の飾り物をして生活感を出し、心地良い空間を作っている。また清潔感を出している。	ベランダから自然の風景が一望でき、壁にはみんなで作成した作品(あじさいの花や七夕飾り)があり、季節を感じながら生活できる空間となっています。居室には個々の名札があり、混乱なく生活できるようになっています。部屋の温度も適温に保たれ、居心地よく過ごせるように工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合った利用者同士で会話をしたり作業ができるように、席配置を考慮している。空いたところにソファを置いたり、自由に座れるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には、家具や食器など馴染みのあるものを用意しておいて、本人が過ごしやすい環境を家族と相談したり、入所時に提案している。	家族に依頼し、使い慣れたタンスや椅子、テレビ、飾り物、写真など持参してもらい、居心地よく過ごせるように配慮しています。カレンダーやぬいぐるみ、自分で作ったものなどもあり、好みの居室となっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレの場所や入浴の場所が分かるように張り紙をしている。それを見て行えることも多い。		